

平成 26 年 6 月 27 日現在

機関番号：34305

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520322

研究課題名(和文) ワイルド受容の系譜 日本と英語圏諸国との比較研究

研究課題名(英文) The Genealogy of the Reception of Wilde: A Comparative Study of Japan and English-Speaking Countries

研究代表者

日高 真帆 (HIDAKA, Maho)

京都女子大学・文学部・准教授

研究者番号：90407619

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円、(間接経費) 1,020,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では日本と英語圏諸国に於けるワイルドの受容状況の比較研究を行うことによって、日本に於けるワイルド受容の複数の特徴を明らかにすることができた。また、従来日本で注目度が低かった喜劇作品の受容にも重点を置いた研究を行うことで、より均衡の取れた受容研究を進めることができた。その際、演劇に焦点を当てながらも、ワイルドの戯曲以外の作品受容にまで視野を広げてこそワイルド劇自体の受容の全貌が明らかになるため、作品の幅を広げた多角的な研究を行い、多岐に渡るワイルド受容の諸相について具体例と共に考察を深めた。

研究成果の概要(英文)：This research has revealed multiple characteristics of the Japanese reception of Oscar Wilde through the comparative study of the reception of Wilde in Japan and in English-speaking countries. A more balanced research into the reception than in previous research was carried out by placing more importance on the reception of Wilde's comedies, which have heretofore not drawn enough attention in Japan. Although the main focus of this study was on the dramatic works and the theatrical reception of Wilde, this project proceeded from multifarious angles, including other genres of his work than his plays, in order to achieve a more comprehensive understanding of the reception of Wilde's plays, thus deepening an analysis of the multifaceted layers of Wilde's reception.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・英米・英語圏文学

キーワード：比較文学 比較文化 英米文学 演劇学

1. 研究開始当初の背景

本研究以前の自身の研究を通して、従来の研究を補完する上で、以下の点に着眼した。

- (1) 第一に、日本に於けるワイルド劇の受容について、従来注目されがちであった悲劇に留まらず、欧米に比して受容が進まなかった喜劇作品にも焦点を当てた総合的な受容研究の必要性が認められた。
- (2) 第二に、西洋諸国では様々な受容研究が行われてきたが、日本と西洋諸国でのワイルドの受容状況には重要な相違点が認められ、それらの比較研究を行うことで、受容のみならずワイルドやワイルドの原作についても一層理解を深めることができると考えるに至った。

2. 研究の目的

本研究「ワイルド受容の系譜 日本と英語圏諸国との比較研究」の主たる目的は次の二点であった。

- (1) 第一の目的は、オスカー・ワイルドの受容について、日本と英語圏諸国(特にイギリス、アイルランド、アメリカ、オーストラリア)に於ける受容状況の比較研究を行うことであった。具体的には、日本と英語圏諸国に於けるワイルドの受容状況との比較研究を行う上で、英語圏諸国としては特にワイルドの活動の舞台であったロンドン、出身地であるダブリン、約百都市で講演旅行を行ったアメリカ、受容のあり方に於いてイギリスやアメリカと好対照を為すオーストラリアに焦点を当て、特に 19 世紀末から 20 世紀初頭にかけての受容状況とその原因を解明することを目的とした。
- (2) 第二の目的は、特に日本に於けるワイルド劇の受容史を明らかにすることであった。具体的には、同時期の日本との比較考察を行い、日本での受容の特徴をも明らかにすることも目的とした。更に、日本でのワイルド受容については、受容初期の 19 世紀末から現代に至るまで包括的な研究を行い、特にワイルドの戯曲や作品の舞台化作品の上演に焦点を当てて研究することとした。また、日本での研究が立ち遅れている喜劇の受容や、ワイルドの戯曲以外の作品受容をも視野に入れ、幅広い資料を検証する多角的且つ均衡の取れたアプローチにより、ワイルド劇の受容の特徴とその背景の解明を目指した。

3. 研究の方法

本研究は国際的視野に立つ学際的研究であるため、国内外で多面的に研究活動を行った。

- (1) 第一に、国内外を問わず大学図書館その他の図書館に於いて資料収集と調査研究を進めた。
- (2) 第二に、関連作家・演劇人縁の劇場その他施設にて調査研究を進めた。
- (3) 第三に、最新の研究動向を把握して、随時研究内容の確認と調整を行った。そのために、国内外の関連学会に参加して研究発表を重ね、関連分野の研究者との意見交換も活発に行った。

4. 研究成果

研究期間全体を通して、日本と英語圏諸国(特にイギリス、アイルランド、アメリカ、オーストラリア)に於けるワイルドの受容状況の比較研究を行った。それによって、日本に於けるワイルド受容の複数の特徴を明らかにすることができた。また、従来日本で注目度が低かった喜劇作品の受容にも重点を置いた研究を行うことで、より均衡の取れた受容研究を進めることができた。

その際、演劇に焦点を当てながらも、ワイルドの戯曲以外の作品受容にまで視野を広げてこそワイルド劇自体の受容の全貌が明らかになるため、短編小説集や長編小説『ドリアン・グレイの肖像』から『獄中記』に至るまで作品の幅を広げた多角的な研究を行い、多岐に渡るワイルド受容の諸相について具体例と共に考察を深めた。

研究は毎年国内外で展開し、研究成果は図書出版や関連学会誌上での論文発表、国際学会での発表等を通して公表してきた。特に国際学会での研究発表や海外での調査研究を通して、比較研究や作品研究を発展させることができた。

本研究が網羅する範囲は幅広く、広範囲に渡る多種類の研究資料の収集が不可欠であったが、研究期間中にはカナダまで研究範囲を広げて英語圏諸国でのワイルド受容について調査研究を進めることができた。

具体的には、2012 年度には、本研究の一環として、ワイルドが一年間講演旅行で北米に滞在した際に訪問したモンリオールに於いてワイルドの足跡を辿り、ワイルドがモンリオールを訪問した時代の資料を有する NFB(National Film Board of Canada) や Grande Bibliothèque(公立図書館)に於いて貴重な資料を得ることができた。その他、アイルランドにも複数回出張し、アイルランド

国立図書館等で資料収集を進めることができた。

これらの海外での調査研究に加え、研究期間全体を通して、国内に於いてもワイルド存命中の19世紀末の関連資料から最新の関連研究論文に至るまで幅広い研究資料を収集し、調査研究を進めた。収集した資料については、随時分析を進めると共に、ワイルドの原作についても作品研究を進め、原作と多様な翻案についても比較研究を行った。

その際、特に、ワイルドの作品に於いてパフォーマンスや舞台芸術というものが如何なる役割を果たしているか、また、複数の文化圏の舞台芸術分野に於いて創られたワイルド作品の翻案作品に於いて、ワイルドによる原作に加えて異なる文化や異なるジャンルの芸術作品が如何なる影響を与えてきたかについて考察し、更に、そのようにパフォーマンスという要素に着眼してワイルドの原作及び他の芸術家による翻案作品を考察することにより、ワイルドと舞台芸術との多岐に渡る関連性について考察を深められたことは非常に有意義であり、今後の研究に繋がる新たな発展を見ることができた。

このように国内外で積極的に研究活動を展開したことにより、関連分野での最新の研究に触れながら本研究についても多くの刺激と示唆を得ることができた。そして、英語圏諸国と日本に於けるワイルド劇の受容像を追究することによって、共通点や相違点に加え、相互の影響関係についても特徴を明らかにすることができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1 件)

1. 単著論文(英文)“When Japanese Tradition Meets a Western ‘Wit and Dramatist’: Japanese Reception of Wilde’s Comedies in the Meiji Era” 日高真帆、(英国)The Oscar Wilde Society、*The Wildean* 第44号、PP.82-89、2014年、査読有。

[学会発表](計 4 件)

1. 国際学会口頭発表(英語)“Tracing the Roots and Routes of the Performative Reception of Oscar Wilde” 日高真帆、単独、International Federation for Theatre Research 2013年国際大会、於スペイン、Institut del Teatre、2013年7月26日、査読有。
2. 国際学会口頭発表(英語)“Hybrid

Wilde: Comparative Literature and Oscar Wilde Studies” 日高真帆、単独、International Comparative Literature Association 第20回国際大会、於フランス、University of Paris-Sorbonnes (Paris IV)、2013年7月24日、査読有。

3. 国際学会口頭発表(英語)“Performing Wilde: Performative Engagements With and Within Wilde” 日高真帆、単独、International Association for the Study of Irish Literatures 第36回年次国際大会、於カナダ、モントリオール、Concordia University、2012年7月31日、査読有。

4. 国際学会口頭発表(英語)“When Japanese Tradition Meets a Western ‘Wit and Dramatist’: Early Japanese Reception of Oscar Wilde” 日高真帆、単独、International Federation for Theatre Research 2011年国際大会、於大阪大学、2011年8月11日、査読有。

[図書](計 3 件)

1. 共著『比較文化への視点』丸橋良雄、廣田麻子、日高真帆他 12名、14番目、総頁数 168 頁、担当箇所:単著論文「夜鳴鶯からサロメへ 『サロメ』と「ナイチンゲールと薔薇の花」の比較考察」(PP.36-44) 単独、英光社、2013年、査読有。

2. 共著『越境する文化』塚田幸光、山内啓子、日高真帆他 14名、6番目、総頁数 200 頁、担当箇所:単著論文「女優の死 Sibyl Vane と Lady Alroy からの考察」(PP.59-68) 単独、英光社、2012年、査読有。

3. 共著『比較文化の饗宴』國友万裕、佐川昭子、日高真帆他 15名、12番目、総頁数 214 頁、担当箇所:単著論文「肖像画からバンベリズムへ ワイルド作品に於ける「二重生活」の変容」(PP.122-133) 単独、英光社、2011年、査読有。

[産業財産権]

出願状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:

出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

1. 招待講演「オスカー・ワイルドが描く女性達 喜劇作品を中心に」日高真帆、単独、京都女子大学文学部英文学科春期公開講座、於 京都女子大学、2011 年 5 月 13 日。

6 . 研究組織

(1)研究代表者

日高 真帆 (HIDAKA MAHO)
京都女子大学・文学部・准教授
研究者番号：90407619

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：